

令和4年度 学校経営計画

富山県立中央農業高等学校

1 学校教育目標

明るく豊かな社会の構成者及び農業の担い手にふさわしい人格の完成をめざし、個性の伸長と能力の開発に努め、創造性豊かで心身ともに健康で社会の進展に対応できる近代的な職業人を育成する。

2 学校の特徴

本校は、富山市南部の山間地中腹に位置し、広大な敷地（34 万平方メートル）と豊かな自然環境を有している。県下唯一の農業科単独の全日制専門高校であり、創校以来、本県農業教育の中核としての歴史を重ね、昭和 44 年、文部省から A 型自営者養成農業高等学校（現在は文部科学省から農業経営者育成高等学校）の指定を受けている。

本科では、生物生産科、園芸デザイン科、バイオ技術科の 3 学科があり、1 年次は学科編成を行わず全員が同一課程を履修し、2 年次以降は生徒の興味・関心、進路希望や適性等により 3 学科に分かれて専門科目を履修している。なお、別に農業特別専攻科を有している。

また、寄宿舎教育（1 年次は義務入寮、2・3 年次は希望入寮）をとおしてよりよい人間形成をめざし、農業教育と連携を図るとともに、環境保全教育にも取り組んでいる。

本校では、これらの特色を生かし、次の 3 つの力を育むことを目指している。①「食・農・環境を考え、実現しようとする力」、②「生かされている命を大切に力強く生きようとする自覚」及び③「経験を通して得られた自己肯定感と自己有用感の上に築かれる自信を持って生きる力」の 3 つである。

これら 3 つの力を育てることで、農業経営者、「みどり」や「ふるさと」を守り支える人材、地域産業の担い手を社会に送り出している。

3 学校の現状と課題

本校は長年にわたり、教育活動の多様化・活性化を図り、随時変化する社会の情勢に適応した学びや、生徒の学びの質を深めることに努めてきた。一方、それぞれの学科・コースにおいて多様で質の高い専門性が求められることから、指導は学科・コースに委ねられる傾向がある。生徒が卒業後に本県の将来を担う職業人として自立するためには、高校在学中に、どの学科・コースでも共通する職業人を育成する指導のあり方について、教員間で共通の認識を持ち、教育活動の各場面で、工夫を凝らしながら生徒の自立を促す必要がある。

また、農業経営者育成高等学校として、一人でも多くの農業の担い手を輩出するという責務を果たすとともに、農業教育をとおして地域を担う職業人を育成するために、より実社会や実生活を反映した学習指導、生活指導、進路指導、特別活動指導となるよう日々指導法の改善・充実に努めることが肝要となる。その他、地域や関係機関・団体等との連携を図りながら、農業教育を基盤とした「魅力ある学校づくり」に邁進していきたい。